

	現状・問題点	課題	具体的な授業改善策
国語	<生徒> ・自分の考えを文章で表現することを苦手としている生徒が一定数いる。 <教員> ・単元ごとに、読むことと関連付けながら表現活動を設定している。	<生徒> ・文種に応じた書き方や推敲の仕方を習得する。 <教員> ・書くことの手順を身に付けさせ、何を書けば良いか困り感のある生徒への支援を行う。	・課題設定・情報収集・整理分析・まとめといった目的を明確にして、活動を行う。 ・自分が書いた文章を読ませ、振り返りをする機会を設ける。
			<ICT 活用の視点> ・タブレットを活用することで、文章を入れ替えるなどの推敲を容易に行えるようにする。
			<ユニバーサルデザインの視点> ・書き出しに迷う生徒は選択できるようにするなど、スモールステップで書けるように指導する。 ・タブレットの使用によって書字を苦手とする生徒の抵抗感を無くす。
社会	<生徒> ・自分の考えを表現することに苦手意識を感じている生徒がいる。 <教員> ・他者と意見を交換したり、それを受けて自分の考えを深めたりする機会を設定しきれていない。	<生徒> ・社会的事象について自分の言葉で思考し、他者の意見を取り入れながら課題を解決する力を身に付ける。 <教員> ・自分の言葉で説明させる探究的な学習活動を取り入れた単元構成を行い、生徒の思考力や表現力を育成する。	・各単元において、グループワークや役割演技などの活動場면을意図的に設定し、生徒が意見を表現しやすい環境を整える。
			<ICT 活用の視点> ・ホワイトボードやタブレットの多様な学習支援ツールを活用して、自分の意見を表現する活動の円滑化を図る。
			<ユニバーサルデザインの視点> ・考察させる前に、考察する際の視点や問いを明確に示していく。 ・「ヒントカード」など、生徒の考察を促すツールを活用する。
数学	<生徒> ・基本的な知識は定着しているが、思考力を問う問題が苦手な生徒がいる。 <教員> ・生徒が数学的な問題に対して、主体的に取り組むように促しきれていない。	<生徒> ・問題演習を通して、知識を活用する解き方を身に付ける。 <教員> ・少人数授業において、学力に応じた演習や指導に力を入れる。	・ペアワーク等の活動を取り入れ、意見や考えを交換する機会を設ける。 ・数学的な活動を積極的に取り入れる。 ・生徒の理解度に合わせた個別指導の充実を図る。
			<ICT 活用の視点> ・関数や図形等の分野において、視覚的に理解を深める教材を活用する。
			<ユニバーサルデザインの視点> ・簡潔で分かりやすい説明や発問を心掛ける。
理科	<生徒> ・日常生活での科学的な経験が不足しており、見聞きした知識が先行する傾向がある。 <教員> ・実感を伴った理解を図るため、観察・実験を軸とした授業を展開している。	<生徒> ・課題を見出し、予想（仮説）を立てて検証し、考察する力を身に付ける。 <教員> ・探究の過程を踏んだ授業をデザインし、論理的な思考力・表現力を高めるアプローチをする。	・理科の興味・関心を高める授業導入時の工夫を行う。 ・観察、実験を充実させ、結果（事実）を根拠にして考察し表現する指導の充実を図る。 ・探究の過程の中でも実験計画の立案、仮説の生成や、結果の振り返りを話し合い活動によって深める授業を、1単元に1回は取り入れるようにする。
			<ICT 活用の視点> ・写真や映像を観察、実験レポートに入れ込む等、検証結果を ICT の良さを活用して表現させたり、科学に関わる情報を配信したり工夫をしている。
			<ユニバーサルデザインの視点> ・簡潔な指示を心掛け、授業のねらいを明確に示していく。
音楽	<生徒> ・歌の授業に積極的に取り組む生徒が多い。 ・音楽の授業で取り扱うような音楽に日常的に親しむ生徒は少ない。 <教員> ・限られた授業数で多くの題材を扱うことが難しい。	<生徒> ・歌の授業で、楽譜を読み解いて、音楽的に曲を分析し歌う能力を身に付ける。 <教員> ・授業の導入部分で楽典的な内容を活用した楽譜の読み取り方を確認していく。 ・実感を伴う授業を展開する。	・音楽の変遷をたどりながら様々な音楽に触れる授業をし、現代の音楽とのつながりを意識させ、今後の音楽活動に生かせるような授業を展開する。 ・意見交流の場を設定する。
			<ICT 活用の視点> ・様々な音源を活用し、比べたり、何度も聴けたりできるようにする。
			<ユニバーサルデザインの視点> ・楽譜や歌詞を電子黒板に映し出し、視覚的にとらえられるようにする。 ・音楽記号を大きく提示する。
美術	<生徒> ・課題を積極的に行う生徒が多い。 ・日常的に美術に関わる活動を行う生徒は少ない。 <教員> ・制作を主とした授業で、体験の多い取組を行っている。	<生徒> ・絵画や彫刻などに必要な基礎的知識を、制作を通して、より学んでいく。 <教員> ・個人に合った制作アドバイスを、体験を通して行っていく。	・制作を通して日常的に美術に興味をもてるよう、声掛けをしていく。 ・生活の中にある色やグラデーションに興味をもてるよう説明する。
			<ICT 活用の視点> ・アイデアをもてるよう、多様なデザインを活用していく。
			<ユニバーサルデザインの視点> ・制作過程を簡潔に説明し、体験を通してわかりやすく説明する。
保健体育	<生徒> ・運動に親しむ生徒が多い。 ・コロナ禍による運動制限の影響があると思われる。 <教員> ・運動量の確保と話し合いの両立が難しい。	<生徒> ・自分自身の課題を把握し、技能向上に向けて取り組む力を身に付ける。 <教員> ・ICT を活用した授業の実践をする。 ・意見交換や考えを伝え合う場を設定する。	・自己の課題を見つけ、解決に向けて取り組むことができるようにする。 ・ペア活動を取り入れ、考えを伝え合うことができるようにする。
			<ICT 活用の視点> ・動きを撮影した動画を活用し、課題発見や動きの分析に活用する。
			<ユニバーサルデザインの視点> ・撮影した動画を見て視覚的に理解し、技能の定着を図る。
技術・家庭	<生徒> （技術） ・話し合い活動を通じて考えたり、発表したりする機会が少ないと感じている生徒がいる。 ・授業に対して、満足度や理解度が高い。 ・技能的な部分で苦戦している生徒がいる。 （家庭） ・日常生活に必要な知識・技能が不足している生徒がいる。 <教員> （技術） ・実習に向けての知識的な講義が多く、話し合い活動を実施する時間が限られている。 （家庭） ・基本的な知識を学び、実習や作品製作を通して技能が身に付くよう指導する。	<生徒> （技術） ・安全性を確保しながら、さらなる実習技能を習得する。 ・普段使い慣れていない工具や道具の正しい使い方（力の入れ方など）を習得する。 （家庭） ・日常生活に必要な技能を習得する。 <教員> （技術） ・実習や講義に話し合い活動を組み込む。 ・生徒が満足できる、理解しやすい授業を作っていく。 ・工具や道具の使い方を原理も含めより詳しく説明すると共に、使い方が上手な生徒に手助けを要請するなど、学び合い活動を充実させる。 （家庭） ・実生活に役立つ作品製作・調理実習などの授業実施を充実させる。	・ （技術） 話し合い活動を充実する。 ・ （技術） 実習や講義、どちらの授業にも、話し合い活動を入れていく。 ・ （技術） ICT 機器を効率的に活用していく。 ・ （技術） 学び合い活動の充実を図る。 ・ （家庭） 基礎的な技能を確実に身に付けた後、発展的な技能実習を行う。
			<ICT 活用の視点> ・ （技術） グループ活動、話し合い活動を活性化するために、ミライシード・オクリンクプラスを活用する。 ・ （家庭） 調理や被服の技能の動画などを活用する。
			<ユニバーサルデザインの視点> ・ （技術） 言語の違いによる、理解力の差異をなるべく減らすために、実物の資料や作業の動画を増やしていく。 ・ （家庭） 見やすい掲示・板書を行う。被服作品の製作途中の段階見本を掲示する。

	現状・問題点	課題	具体的な授業改善策
英語	<生徒> ・コミュニケーション活動に積極的に取り組む生徒が多い。 ・基本的な知識・技能の定着が図れていない生徒が一定数いる。 ・基本的な知識・技能が、実際のコミュニケーションの中で生かし切れていない。 <教員> ・少人数授業を活用した、基礎・基本の定着を要する生徒への、効果的な引き上げが十分に行えていない。	<生徒> ・「聞く」、「読む」、「話す（やり取り）」、「話す（発表）」、「書く」の5つの力を総合的に身に付ける。 ・実践的なコミュニケーション能力を身に付ける。 <教員> ・基本的な知識・技能を身に付けるためのスパイラル学習が図れる授業設計を行う。 ・主体的・対話的で深い学びを通して、思考力・判断力・表現力を身に付ける授業設計を行う。	・少人数授業の利点を生かし、個に応じた指導の充実を図る。 ・身に付けた言語材料を用いながら、実際のコミュニケーションの目的・場面・状況に沿った学習活動を各単元に設定する。
			<ICT 活用の視点> ・デジタル教科書やタブレットのカメラ機能によるパフォーマンスの録画など、タブレット PC を活用する機会を積極的に設ける。
			<ユニバーサルデザインの視点> ・授業の「めあて」や授業の流れ、指示の内容などをモニターで視覚的に提示する。 ・理解しやすい Classroom English を用いて指示を出す。